

実技試験：「音源審査」におけるDVD音源提出方法について

(1)実技試験が「音源審査」となる入試区分及び試験場(作曲コース以外)

HONORS 特待生入学試験を除く，実技試験を実施する全ての入試区分で，希望する場合は「音源審査」を実施する。ただし，作曲コースについては，「音源審査」は行わず，本学試験場及び学外試験場において実技試験を実施する。

※実技試験内容などの詳細は実技試験曲目一覧を参照。

管弦打楽器の受験生は，試験曲の楽譜を(変更やカットを含み，記入事項があれば記入して)提出すること。

(2)「音源審査」におけるDVD提出について

音源提出にあたっては，下記事項を十分熟読のうえ，正しく提出すること。

A. DVD音源提出要領

提出の形態	作成上の注意	作成時期	提出部数
DVD-R	<p>①実技試験曲目一覧を確認のうえ，実技試験カードに記入した曲目順に，課題曲の演奏を収録すること。</p> <p>②演奏を撮影する場所などについては特に定めない。</p> <p>③管弦打楽器の受験生については，無伴奏とする。なお，声楽コースの受験生については，必ずピアノ伴奏をつけたうえで演奏を収録すること。</p> <p>④DVD-Rに標準モードで収録すること。</p> <p>⑤DVD-Rの表面とケースに『入試区分』，『氏名』，『出身高等学校名』，志望する『コース・課程』，『「楽器名」又は「声種」』，『演奏曲目』をそれぞれ記入すること。 (※記入方法など詳細は「B. DVD表面・ケースへの記入事項について」を参照)</p> <p>⑥受験生本人の演奏を収録すること。</p> <p>⑦映像の冒頭に受験生本人(演奏者)の上半身アップ(正面)を5秒間，必ず収録すること。また，演奏時における受験生本人(演奏者)の顔が判別でき，手元などがよく見えるように収録すること。</p> <p>⑧収録は，始めから終わりまで，すべてを通して行うこと。 ※上半身アップから全試験曲を演奏し終えるまで，収録を止めてはならない。</p> <p>⑨DVD-Rに記録する際は，PC以外の機器で視聴出来るよう，必ず互換性を維持すること。</p> <p>⑩収録したDVD-Rについては，画質，音質などを必ず確認のうえ，提出すること。</p> <p>⑪提出にあたっては，破損に十分留意し，適宜エアークッションなどで梱包のうえ，出願書類とともに提出すること。</p> <p>⑫提出された，DVD音源については，一切返却しない。</p>	出願前3ヵ月以内の演奏とする。	DVD-R 1枚

B. DVD表面・ケースへの記入事項について

「音源提出」にあたっては、受験生本人の演奏を収録したDVD-R(1枚)のDVD表面及びケースに必要な事項を必ず明記のうえ、提出すること。(以下の記入例参照)



DVD表面:記入例①

(入試区分):一般選抜
(氏名):津曲 太郎
(出身高等学校名):国際高等学校

DVD表面:記入例②

(コース・課程):器楽コース管弦打楽器課程
(楽器名):フルート
(演奏曲目):シャミナード:コンチェルティーノ op.107

ケース:記入例

(入試区分):一般選抜
(コース・課程):器楽コース管弦打楽器課程 (楽器名):フルート
(氏名):津曲 太郎 (出身高等学校名):国際高等学校

参考 表記について

コース・課程	「楽器名」又は「声種」
器楽コース ピアノ課程 器楽コース ピアノ演奏家課程	ピアノ
器楽コース 管弦打楽器課程 器楽コース 管弦打楽器演奏家課程	主専攻とする楽器名
声乐コース	ソプラノ メゾ・ソプラノ アルト テノール バリトン バス

※メモリカード、USBメモリで提出希望の方は、入試・広報課へお問い合わせください。